

医学部医学科 留学プログラム 情報共有シート

氏名 三村 昇 学年 (留学当時) 4

派遣期間 2018 年 4 月 6 日 () ~ 2018 年 7 月 4 日
(水)

留学先 ウェイン州立大学

- 1 プログラム内容について
 リサーチ・クラークシップでの留学
 クリニカル・クラークシップでの留学
 その他

実施内容：上側頭回の刺激によって誘発されるβ波成分の分布・変化

- 2 宿泊施設について
 寮
 ホームステイ
 ホテル

・広さ 約 80 m² 2 人部屋
 ・費用 約 20000/月 円 / (1日・1週間・1か月間)

- 3 生活について

(1) 生活費 (寮費を除く)

項目	金額	内 訳
食 費	180000	寮近くにあるスーパーでの買い物など
学用品購入費	なし	
交 通 費	10000	往復のタクシー代
そ の 他	なし	
合 計		

(2) 治安状況・危険地域など

特に問題なし。21:00以降に外に出ることはなかった。

(3) 一日のスケジュール(月～金)

6:00						12:00						17:00
				ラボに出勤 作業開始(月 曜のみカンフ ァあり)			昼食		作業の 続き主に 脳波解析			

18:00						24:00
帰宅		夕食				就寝

(4) 休日の過ごし方

ラボの研究員の方たちと野球観戦、BBQなどのイベントを行った。それらのイベントがない日は自宅にてゆっくりと休みをとっていた。

4 感想等

この研究室は日本人5人、アメリカ人2人の研究員で構成されている。そのため、このラボは他の海外の研究室と異なり基本会話が日本語で行われた。アメリカ人2人はウェイン州立大学の大学生で週1, 2回ほど研究の手伝いに訪れていた。僕たち生徒二人に対し、一人の指導員が付き本当に親切に脳波解析の基本から教えてくださった。研究室の雰囲気も非常によくメンバー同士の仲も良かったため、週末も一緒に過ごすことが多かった。月曜のカンファでは現地の小児科、脳神経外科の医師を交えて行っており、そこに毎週同席させていただけた。アメリカの病院、大学ならではの雰囲気も味わえた。

① 留学を通じて感じたこと

毎週月曜のカンファ、そして現地の医師による、てんかん患者に対する電極設置手術とてんかん患者に対する stimulation mapping を実際に見学させていただいた。また、浅野先生と何度かアメリカならではの勤務形態やアメリカ医師の仕事に対する考え方など教えてもらえ日本と大きく異なることを実感した。そして、もし将来基礎研究に興味をもった時はアメリカに出てくるべきだと感じた。

② 今後、この経験をどのように活かすか

このリサーチクラークシップで、アメリカの医学に三か月触れることが出来た。このような機会は非常に貴重な機会であり、4年生という早い段階でこのような機会を経験できたことは将来自分がどういう道に進みたいか見つめなおすいい機会となった。また、浅野先生のご厚意により英語の論文を書け、それを学会発表できるというチャンスまでいただけた。国内では出来ないこれらの経験を糧にこれからの進路選択に役立てていきたいと思った。

③ 後輩へのアドバイス

他の海外の教室は指導員が外国人なのに対し、浅野研究室では日本人のため英語に自信がない人でも是非経験してもらいたい。また、アメリカの医療制度、医師、研究のあり方などを浅野先生が丁寧に説明して下さり実際の手術現場等も頼めば快く見学させてくださる。他の日本人研究員も国内で医師をやっていた方のため休憩時間に将来の指針を示して下さり大変役に立った。日常生活では必然的に英語を使用しないといけないためリスニング・スピーキング能力が鍛えられ、三か月の間でかなり英語の力の伸びを感じられた。三か月とまとまって時間をとって海外に行く機会はこの先ないと思うのでぜひ気になる方は挑戦するべきだと感じた。